

SRI アナリストの視点

－専門家との協同－

株式会社グッドバンカー
リサーチチーム

SRI アナリストは、本来、企業の ESG 調査・評価だけでなく、国家や政府機関・地方自治体・国際機関なども、サステナビリティ（ESG）の観点から調査・評価することが求められます。そのために、世界的な動向に絶えず目配りし、できるだけ海外も歩いて、現地ならではの情報を収集・分析しています。

最近、EU がプラスチックの容器や包装に対する課税を検討していることが報じられました（*1）。これは英国の EU 離脱で生じる予算の穴埋めと、プラスチック包装の削減による環境問題の改善をねらったものだそうです。実はフランスでは、2016 年 12 月、世界初で「プラスチック製使い捨て容器や食器を禁止する法律」を 2020 年から施行すると発表しました。さっそく小売業におけるプラスチック製レジ袋が禁止となり、2017 年からは生鮮食品包装用などスーパーのレジ袋も禁止されました。2020 年からプラスチック製の食器も禁止されます。

ただし、必要最低含有率以上のバイオマス为原料とした生分解性のプラスチック袋については現在は対象外で、今後はこのバイオマスの含有率が段階的に引き上げられることになっています。

フランスに出張したアナリストが、早速この生分解性プラスチックのレジ袋を手に入れ、これを当社のサポーターである関西の企業と京都工芸繊維大学の大学院生に分析してもらいました。

この会社は、バイオマス为原料として用いるプラスチックや、自然環境にやさしいプラスチックの開発を行うベンチャー企業です。社長はもともと化学会社で石油系のプラスチックを作っていたのですが、退職後に、自然と共存しうるプラスチックの開発をめざして、この会社をつくったのです。分析によると、この袋は生分解性のポリ乳酸樹脂と生分解性を持たないポリエチレン樹脂の混ぜ物でした。ポリ乳酸は比較的固くてもろいという性質がありますので、買い物袋などに用いる時にガラス瓶や缶を入れると裂けてしまう性質があります。この欠点をカバーする為に柔軟性を持ち、引き裂けにくいポリエチレンをブレンドしているのです。しかし、ポリエチレンには生分解性がないので、今後は 100%バイオマス为原料とする生分解性プラスチックの開発が、化学業界にとってのチャレンジであり、大きなビジネスチャンスにつながります。

当社ではこのように専門家と協同、その知見を動員して、最先端の技術動向や市場性の評価をしています。そしてその結果を、アナリストが実際の会社訪問でのヒアリングを通して微調整、格付に反映させるのです。ですから、SRI アナリストにとって、さまざまな分野の専門家との人的ネットワークを構築することが、必須の条件となります。

*1 南日本新聞 2018 年 1 月 12 日号